令和６年６月 12 日　Vol.1074

お忙しくても、約２分間で読めます

ハートフル・ワード（心からの言葉）

山内公認会計士事務所

ＴＥＬ０９８－８６８－６８９５
ＦＡＸ０９８－８６３－１４９５

経営者への活きた言葉

勝利の極意（相手と肉薄する勇気を持つ）　　瀧澤　中（作家・政治史研究家）

１．柳生宗厳（むねよし）。剣豪小説などで有名な柳生十兵衛のお祖父さん。柳生新陰流の流祖。あるとき、宗厳の元を一人の客が訪れてきた。「明日、仇と決闘をするのですが、私は剣法が未熟です。どうすれば勝てるのか、教えていただきたい」。宗厳はこんな教えを授けた。「刀の鋒（きっさき）で相手を斬ろうとする者は敗れ、刀の鍔（つば）（手元）で相手を倒そうとする者は勝つ。明日は鍔で、相手を撃破するように努めなされ」。つまり、相手に肉薄して戦えということである。翌日、客人は見事に決闘に勝利した。

２．問題が起きたときに、解決する方法は大小さまざま。「今だけごまかせばいい」と思えば「鋒」で表面をなぞるだけの改革で終わろう。先送りは、解決手段がない場合に有効なときもあるが、先送りするのはたいがい当事者に勇気や覚悟に欠けているケースが多い。根本から問題を解決しようとすれば、短期的には損害を被り、摩擦が生じるかもしれない。

３．すなわち、勝利を手にするには鍔と鍔を重ねるような戦い方、相手と肉薄する勇気を持って戦うのが一番だ、と宗厳は教えます。宗厳は柳生家憲（家訓）に、「昨日の我に今日は勝つべし」と残しています。

（参考：「週刊ダイヤモンド」2024 年３月 30 日号）

経営者のための理念・哲学

何気でない出会いが生きる力となる

鈴木　秀子（文学博士）

１．私は国木田独歩の『忘れえぬ人々』という作品がとても好きなのですが、主人公である文筆家は旅先でいろいろな人と出会います。そこで描かれている出会いとは島の浜辺で何かを拾っている人だったり、人前で琵琶（びわ）を奏（かな）でている琵琶僧だったり、すべて何気ないものばかりです。

２．しかし、主人公は孤独を感じる度にその人たちを思い出しては生きる力を得ています。この作品は、人生における一つひとつの出会いがいかに小さなものであっても意味があるということを教えてくれているように思います。何気ない出来事がその人にとって忘れがたいインパクトを与えることはよくあることです。出会いに偶然はなく、必ず何らかの意味があるのです。

（参考：「致知」2024 年６月号）

人事・労務について

会社と社員は両輪の関係

１．アサヒグループ・ホールディングス㈱は、全ての事業活動の原点である、「Asahi Group Philosophy（AGP）に基づきグループ共通の価値観と方向性を全世界の社員と共有し、価値創出に挑戦している。経営戦略の実行には人材戦略との密接な連動が不可欠と考え、経営基盤強化に向けて「人的資本の高度化」に注力する。

２．「会社と個人の成長を両立する企業風土の醸成」は AGP の行動指針の一つでもある。「戦略を実行するのは人ですから、経営戦略と人材戦略は上下関係ではなく両輪です。両戦略が補完し合う関係であることが、持続的に成長して価値を高め続けるこつです」谷村圭造取締役は言う。社員と会社が両輪で成長していけるように取り組んでいる。

（参考：「日経ビジネス」2024 年４月８日号）

古典に学ぶ

日本人は手を合わせて生きてきた

１．ところが、お金さえあればコンビニや通販でなんでも手に入る現代は、社会や周囲の人、自然とのつながりが薄れ、それらの恩を実感する機会が減りました。

２．周りを見渡しても、感謝の心を忘れ、他者への批判や世の中への文句を繰り返している人も少なくないように見受けます。しかし、「おかげ様」という言葉があるように、私たち日本人は昔から感謝の心を大事にし、何事もありがたく受け止め、手を合わせて生きてきたのです。

（参考：名取芳彦監修「空海　道を照らす言葉」）：河出書房新社